

ミニ・ラグビーのコーチング

(3・4年生の練習から カテゴリーごとにコーチの目)

平成19年1月18日スタート

文責 佐藤 満弘

はじめに

コーチングは難しいもので、これでいいということはありません。常に試行錯誤です。子供たちの性格、素質、体力などを見ながら適切に教えていかなければならないし、子供たちの自主性を引き出すことに努力しなければならないのです。

チームとしては、戦術、戦略を考えていく必要もあります。また、ルールを理解し、間違いないようにしなければなりません。ルールを利用しての戦術も必要です。

また、当然のことながら学年の差でコーチングのレベルも違ってきます。

コーチには技術、知識、経験がなければいけません。

しかし、ミニ・ラグビーのコーチはラグビー経験が無くても出来ます。

子供たちへの愛情を持っていれば。知識・技術などはあとからついてきます。

多くの意見を踏まえていきたいと思ひますし、当資料も常に改訂を前提として作り上げていきたいと考えています。

* この資料は、私が現在担当している中学年を対象に書いています。

幼稚園・低学年・高学年・中学生では当然のこととして、修正しなければならないところもあるでしょうし、追加すべきところもあるでしょう。

0. コーチになったら最低限これだけは

0-1. 情熱を持つ

子供たちを教える、子供たちに教わる、を通じてお互いに信頼感を持ち合い、両親ではない、教師ではない立場で子供たちに接するには情熱が必要です。

大きな声を出すことではなく、真摯な気持で合い対すれば自ずから道は開けてきます。まずは練習を休まないことです。

0-2. 子供は名前と呼ぶ

姓ではなく名で呼んだほうが良いと思います。家庭で呼んでいるのは名です。
あだ名も悪くはありませんが控えたほうが良いでしょう。
コーチになって、または他の学年を担当することになって最初にすることは子供の
名前を覚えることです。それも出来るだけ早く。

0-3. 子供の目線で話しかけよう

子供と話しをするときは、かがむ、腰を下ろすなどで子供の目線で話しをするよう
にしましょう。上から見下ろすかたちで話すのは子供たちが威圧感を持ちます。
正直に話してくれない、自分の考えが出せないなどの欠陥が生じます。

0-4. 子供たちの健康状態に気をくばろう

朝、会ったら子供たちの顔色に気をつけましょう。朝食を食べてこない、前の晩に
夜更かしをしているなどで顔色の悪い子、元気のない子がいます。
ムリをさせないようにしましょう。
また、元々病気を持っている子もいます。父母のかたとも話しをしましょう。

0-5. 言葉に気をつけよう

思いがけない言葉が子供を傷つける場合があります。
例えば“学校の成績はどうなの”，“お兄ちゃんなんだから”とか、なにげなしに言
ったことが子供によってはショックを与えることがあります。
注意するとともに他のコーチにも伝えておきましょう。

0-6. 障害者も普通の子供

このスクールはオールカマーです。
程度に関わらず、知的障害、身体障害を持った子も受け入れています。
また、見た目ではわからない子もいます。親と良く相談し適切な対応が望まれます。
できるだけ普通に扱うよう心がけましょう。

0-7. 体罰は絶対禁止?????

原則は体罰は禁止です。でも、頭をコツンと叩く、おしりを叩くなど体罰とまでい
かないものもあります。このへんまではいいのでは。
暴言は暴力と同じです。前向きの言葉を使い続けましょう。

0-8. 誉めること 叱ること

人によっては、誉めることに徹底することで叱る必要はないというかたもいます。
しかし、時には叱ることも必要ではないでしょうか。
誉めることに制限はありません。叱る時にはその理由をハッキリとさせ、子供たちが
納得、理解できるような叱りかたを心がけるようにしたらどうでしょうか。

0-9. 体力をつけようとしな

週1回、2時間ていどの練習では体力はつきません。
中学生までは育ち盛りです。ウサギ跳び、階段のぼりなどの練習は子供たちの成長
を阻害します。いまでは高校生もやりません。
技術を中心に教えてやったほうが良いと思います。
また、そのほうが子供たちの興味を引き出すのです。サインプレーもいいでしょう。

0-10. コーチ間の話し合い

一番、困るのは担当学年内でコーチの教え方が異なるケースです。
ヘッドコーチを中心として話し合いを多く持ち、共通の指導方針を決めておくこと
です。各コーチはそれぞれの考え方があるのは当然で、その意見も尊重しなければ
なりません。しかし、一旦、方針を決めたならそれに従ったコーチングをしなければ
いけないのです。一番困るのは子供たちなのですから。
他の学年からきて口を挟むのは、それが善意であっても排除しなければなりません。

I. パスの練習

パスはラグビーでは基本です。これが上手くなないとラグビーにならないのです。ラグビーではボールを前に投げてはいけません。常に真横または後方に投げなければなりません。“後ろに投げて前に進むの”といった疑問がわきます。そこがラグビーの面白さです。

ボールを前に進める方法としてキックがありますが、タッチに出れば相手ボールのラインアウトになりますし、相手にキャッチされれば相手の攻撃に変わります。パスを上手くつなげることで地域を獲得出来るのですし、相手ゴールにタッチダウンすれば得点となるのです。

- * ボールを前に落とせばノックオン——相手ボールのスクラム
- * ボールを前に投げればスローフォワード——相手ボールのスクラム
- * ボールを故意にタッチに投げれば不正なプレー——相手ボールのペナルティ

I-1. スタンディングパス (すべての学年)

スタンディングパスはパスの基本練習です。色々な種類があり学年により高度な練習に進めていきます。ここで基本をしっかりと身につけるようにします。

<コーチの目>

ボールの持ち方 基本は真ん中を掴みます。左右は均等に力をいれます。

この原則を守らないとボールは不規則な回転をします。

腕の振り フォロースルーを取るようにします。

ボールを投げたあと腕は目の高さに、手の平が上を向いているかを確認します。

上すぎればボールは上にあがります。下過ぎれば距離が出ません。下からほうり投げるのもダメです。

ボールの受け方 目の前に手の平を相手に向け、ハの字を書くようにします。

指はついていても、開いていてもかまいません。

なれてくれば常にボールの真ん中を掴めるようになります。

注意して見てあげてください。

- * 原則は手でキャッチすることです。胸で受け止めると次のパスが遅くなります。雨などぬれたボールは別ですが練習では手で取るようにします。
- * スクリューボールは高学年になってからでいいと思いますが、中学年でも本人にその気持ちがあれば、やらしていいでしょう。原則は片手なげです。
- * スナップパスは腕の振りと兼用すれば距離の出るパスです。ボールをしぼるようにします。今、教えることもないでしょう。

I - 1 - A. 二人で (すべての学年)

初歩のパス練習です。ここからはじめます。最初は2～3メートルの距離でいいのです。

<コーチの目>

相手の取りやすいところ、胸から腰のあたりに投げてやります。

基本となる、ボールの持ち方、腕の振り、ボールの受け方を注意してあげましょう。なれてくれば徐々に距離を伸ばしてやります。5メートルまで投げられれば十分です。

肝心なことは、気持ちをこめること“取ってくれよ”と祈りながらやることです。単調な練習なので長時間やらないでください。

平成19年1月14日、平成19年1月21日、平成19年1月28日

平成19年2月4日、平成19年2月11日

I - 1 - B. 円陣で (すべての学年)

円陣でやるのも初歩のパス練習です。コミュニケーションを取ることを目的としています。

<コーチの目>

相手にパスをするときに、右方向なら右足を、左方向なら左足をふみ出して腕の振りをたすけます。逆足とならないよう注意してあげてください。

受けるときは、受ける側の反対の足を踏み出し、相手方向に上半身のみを向けるようにします。パスするときは反対です。

FWならここでもキャッチするときに前傾姿勢をとるようにします。

平成19年1月21日、平成19年1月28日、平成19年2月4日

平成19年2月11日

I - 1 - C. 縦長で (すべての学年)

4～5人で縦に並びます。スタンディングパスです。

端まで回したら振り返ってパスを続けます。

スローフォワードにならないパスであることを意識します。

ここでも持ち変えないで早いパス回しをします。

腕の振り、踏み込みなど円陣パスと同じです。

I-1-D. 対面パス

2点を結んでの対面パスです。ボールは相手のふところに入るように手渡しします。浮かせてもよいでしょう。

ボールに集中しないと誰からボールをもらったらいのか迷ってしまいます。

ボールを2個にし、スピードを上げるとからだがつつきあいます。

ぶつからないようにすること、キャッチミスをしないことが主眼です。

パスする方向を変えてみます。前傾姿勢も必要です。

試合前のからだ慣らしに最適です。

I-1-E. グリッドを使って対面パス 左右にパス

グリッドを使い、2方向から対面パスをします。

中央で重なり合いますので、さらに集中しなければなりません。

なれてきたら、中央で右、左へのパスをします。ボールをもらうほうも集中しなければなりません。

パスそのものは難しくはありませんので、この練習では集中力を養います。

中央から左右にパスをします。もらうほうは受け取ってからスタートします。

ここでも中央でクロスしますからぶつからないようにします。

パスの正確さが要求されます。投げる方向を変えてみましょう。

I-1-F. グリッドを使ってパス and アウト

I-2 ランニングパス

地域獲得はこれが上手にならないといけないのです。

原則は真っ直ぐ走ることです。簡単そうに見えてこれが難しいのです。

走りながらパスをする、パスを受けるのでどうしても蛇行することになります。

スピードが落ちる、止まるということも起きます。

<コーチの目>

- 下半身は 下半身は走る方向に常に向いていなければなりません。
これが真っ直ぐ走る基本なのです。
- 上半身で パスは上半身のみをボールキャリアーの方に向けて受け取りま
す。投げるときも上半身のみを使います。
* それぞれのときに近寄ってしまうのです。
蛇行の原因です。
* BK では相手のマークにナメラれてしまいます。
- ハンドアップ パスを受ける反対側の手を上げます。
パスが確実に受け取れようにするのです。
- コーリング ボールを持っているプレーヤーは先頭を走っています。
後ろが見えないのです。大きな声でコーリングしましょう。
- 目を離すな ボールをパスしてもそのあとのボールの動きから目を離して
はいけません。誰かが落とすかも知れないのでそのボールに
働きかけないといけないのです。
- 並び順を変える 1回走るとに並び順を変えましょう。
常に同じ位置ではいけません。
- パスは早く ボールのスピードではありません。キャッチしたボールを掴
み直さないでワントイミングで投げるようにします。
* スワープをする、ステップを踏む、ペースを変えるなどは、真っ直ぐ走れる
ようになってからのことです。

I-2-A 歩きながら 3人で 4人で (幼稚園・低学年)

ランではありませんが、動きながらですからランニングパスとしてもよいでしょう。

パスをしたら足踏みをする、止まるなどでボールの後ろにいるようにします。

常にボールを持った人が一番前にいるようにしてください。ここが大切。

相手のふところに投げてやるようにします。出来れば少し前めに。

平成19年2月4日、平成19年2月11日

I-2-B. ジョグで 4人で (幼稚園・低学年)

サイド(端)のプレイヤーは、ボールを持ったら少し早く走り、ラインを引っ張るようにします。そうするとラインが斜めになります。

位置の交代をし、経験を積ませるようにしましょう。

スピードが早くなればパスが乱れるようになりますので注意することです。

平成19年2月11日

I-2-C. スピードをつけて 3人で 4人で (中学年・高学年)

本格的なランニングパスです。チームとしてお互いの意志が通じるようにします。

角度は30度くらい、できるだけ深いラインにします。

ここで要求されるのはボールをもらうときのスピードです。

最初のうちはボールが取れなくてもかまいません。取ろうとして止まる、スピードが落ちるのではなんにもならないのです。キャッチミスは恐れないことです。

<コーチの目>

* ハンドアップ、コーリング、ボールから目を離さないはもちろんのことですが特に下記の点について注意します。

蛇行しない	原因は下半身まで動かしている、パスをするときはその方向へ寄っていく、もらうときは近づいていくのです。
スピードは	ボールをもらう時のスピードが自分で出せる最高のものを出しているか。キャッチミスは責めないでください。
前目に投げているか	タイミングを誤れば人に投げてしまいます。 受ける相手のスピードも殺してしまいます。 意志疎通が大事なのです。
パスしたあと	スピードを緩めないとラインが浅くなってしまいます。 常に一定の間隔と角度を維持します。
はやいパス	もらったボールを持ち変えないでパスします。 引けばダブルモーションとなり、パスが遅くなります。

平成19年4月08日

I-2-D. スピードをつけて バックアップ

ランニングパスの応用編で実戦に近くなります。

ボールをパスしたら外側に周り、再度パスを受けます。

<コーチの目>

ボールを見る

パスをしたら外に回りますが、そのコースは常にボールの後ろにいないければなりません。

ミスがあるものと思っていなければならないのです。

早回りはいけません。

たてなおす

ボールをもらったならゴールに直角になるようにコースを変えます。流れてしまっってはいけません。

I-2-E. スピードをつけて 縦パス

これはFWがやるランニングパスです。しかし、ミニではBK・FWの区別は極端にあるものではありません。特に中学年以下では。

BKも一緒にやったほうがいいのです。

<コーチの目>

声を早めに

“右”、“左”、“パス”の声を早めにかけて。

ボールを持っているプレーヤーは後ろが見えないのです。特に縦では。

前傾姿勢

密集状態でのパスですから、相手は目の前にいるものと思ひ、極端な前傾姿勢をとることです。

ボールを見せる

声がかかったらスピードを落とし、ボールを見せてやりまます。確実に手渡しするのです。

平成19年4月08日

I-3 オーバーヘッドパス（飛ばしパス）

シャンパンラグビーで見受けられるのが、オーバーヘッドパスです。

長い距離を飛ばすことで知られていますが、ミニでは無理でしょう。

同じような考え方が飛ばしパスです。高学年になれば可能になります。

センターを飛ばしてウイングにパスするなど有効な手段です。

II. 当たりの練習

これもラグビーの基本練習です。キチンとした姿勢を保たないと頸椎、鎖骨などを痛めます。ラグビーで一番危険なプレーです。事前に首を回す、肩を回すなどの準備運動をしておきます。レスリングのブリッジなどは有効な準備運動になります。実戦ではボールを持って相手にあたり、ポイントを作る。(ボールを持って) また、そのカバーリングをする(ボールを持たずに) ことになります。

- * 相手が目の前にきたのでパスをしようとしたら、パスをする相手にもマークがきていたので当たることになるのです。
- * **FW** ではボールを持ったらパスするな、一歩でも前に出ろ、そして当たれというのも一つの考え方です。
- * 当たりの練習はタックル、そしてモール・ラックでの押しに共通します。または、地上にあるボールを相手が拾おうとしているので当たって拾わせないいわゆる“オーバー”というプレーです。(ボールを持たずに)

II-1. 一人で ボールを持たずに

当たりの基本をここで練習します。

<コーチの目>

頭、顔が下がらないように 頭が下がれば下に落ちます。危険なプレーとなります。気持ちとしては胸であたるような感覚です。当たったときに顔が前をみているように注意しましょう。自然と背骨が真っ直ぐになります。

バインドをする 相手を抱え、握ることです。手をよく見てやってください。最近の子供たちは握ることが不得手のようです。手の平で押さえているだけというが目立ちます。

踏み込む 両足を揃えて当たるのではなく、片足を相手の足下に踏みこんで当たるようにします。

当たったら押す ボールを持っている、いないに関わらず押さなければいけません。押すときは駆け足です。ヒット——プッシュ——(スリップ)と考えてください。

平成 19 年 1 月 1 4 日、平成 19 年 1 月 2 8 日、平成 19 年 2 月 4 日

平成 19 年 4 月 0 8 日

Ⅱ－２．一人で ボールを持って

この練習は実戦でしばしば出てきます。ラグビーの基本とも言える練習です。頭、顔を上げる、踏み込む、当たったら押すはボールを持たないときと同じです。ボールをコントロールすることが大事なことです。

<コーチの目>

- シッカリと持つ 落とさないように、相手にボールをばくられないようにシッカリともちます。ときにははたいてやってください。簡単に落とすにはダメです。
- 相手の届かないところへ ボールはお腹の下で抱えます。このようにすれば、味方に手渡すときも、ダウンボールをするのも簡単です。
- 出す位置は 股間から出す、斜め後ろから出すのがよいでしょう。後ろ向きになって出すやりかたもあります。別の機会に。
- バインド 当たるときはバインドできません。片手にボールを持ち、片手でバインドすることもあります。これは片手でボールが持てるようになってからです。ボールを手放したあとはバインドして押します。
- 横向きにならない ボールを持つかたちでは最初から横向きに当たることが多くなります。背中当たるのです。これでは相手にボールを取られることが多くなりますし押すことは出来ません。

平成 19 年 1 月 2 8 日、平成 19 年 2 月 4 日、平成 19 年 2 月 1 1 日

Ⅱ－３．一人で ボールを拾って (ピックアップ)

地上にあるボールを拾い上げる練習です。実戦でもその機会は多く出てきます。タックルドボールはその象徴です。早く拾ったほうが有利なのは当たり前です。

<コーチの目>

- またいで取る 手先で拾おうとしてはいけません。相手は目の前にいるのです。押し倒されてしまいます。ボールを真下に見て取れば簡単には倒されません。
- 前傾姿勢 より体を低くすれば万全です。
- 声をかける “マイボール” の声をかけることで味方同士の取り合いを防ぐことができます。

- * コーチは子供たちの前に立ち、軽く押さえてやってください。感触がわかります。
- * 2人、3人で拾ったプレーヤーと一緒に当たって見るようにしてみましょう。

平成 19 年 4 月 0 8 日

Ⅲ. タックルの練習

タックルはラグビーの華です。タックルがきれいに決まっている試合は緊張感を呼びます。人と人が何の防護もなしにぶつかり合うのですから怪我也多く出ます。

しかし、練習が出来ていれば怪我は少なくてすむのです。

といって練習が出来ていればタックルは簡単にできると思ったら大違いです。

タックルは気力です。やろうと思わなければできないのです。

試合の最初で出来ればあとは楽です。タックルは面白く決まります。

危険なプレーですからルールの上では反則を厳しく取ります。

タックルが成立したら 相手が地上に倒れ、タックラーも地上にある場合タックルが成立します。捕まえていなければなりません。

離した状態からは再度立ち上がってプレーをすることが許され
ます。

地上に倒れている状態とは片膝、両膝がついている状態も含ま
れます。

相手を離す タックラーはタックルしたあと、直ちに相手を離さなければい
けません。

不可抗力でもダメ。他のプレーヤーがおおいかぶさっている。

ボールを離す ノットロールアウェイ——相手ボールのペナルティ

ボールキャリアーは直ちにボールを離さなければいけません。

地上に置く、パスをするなど。

ゲートが成立する ノットリリースザボール——相手ボールのペナルティ

インゴールに向かってボールキャリアーが倒れている幅。

1 疋とは限りません。その幅の真後方からでないといプレーに
参加できないのです。

倒れこまない オフサイド——相手ボールのペナルティ

立ってプレーするのが原則です。ボールに向かって倒れ込むの
は反則です。

オーバーザトップ——相手ボールのペナルティ

- * 父母の方々と話し合い、マウスピース・肩当てなどを装着させるのも考えられます。
マウスピースは歯を保護するとともに首を強くすると言われています。
肩当ては鎖骨骨折の予防です。
ただ、子供は成長が早いので年度ごとに交換しなければならないのが難点です。
平成 19 年 1 月 1 4 日

Ⅲ－１． マシンで

タックルマシンを使つての練習は形つくりです。姿勢と当たる感触を掴みます。
<コーチの目>
姿勢は当たりの練習とほぼ同じです。顔を上げる、バインドをする、踏み込むなど。
加えて、マシンに頬をつける、低い位置に当たる、絞りこむなどを見てやってください。低学年では絞り込みは難しいかもしれませんが。
マシンの後ろで座って見てやると顔が上がっているか、しっかりと抱えているかが判定できます。
平成 19 年 1 月 1 4 日、平成 19 年 2 月 4 日

Ⅲ－２． 1 対 1 で

生タックルは実戦に近い練習です。タックルは怖いという気持ちが働きます。
丁寧に教えることで恐怖心を取り除いてやります。
<コーチの目>

逆方向から入らない	危険ですからこのことは徹底してください。 相手の体重、スピードをもろに受けます。
勇気を出す	練習だけではタックルはできないのです。 目をつぶっている子もいます。
相手を捕まえる	キチンと入れなくてもさわったら離さない、倒れるまで。 あきらめないことが重要です。
バックしたら絞る	マシンと違って、相手は足を交互に出しています。 絞らないと両足を捕まえられません。
目線に注意	タックルに入ろうと思ったら、目線は相手の腰に見当をつけず、相手の目、顔を見てはいけません。
自分の体重を活かす	相手が大きければ上半身の力だけでは倒れません。 自分の体重を活かすことです。具体的に言えば自分から倒れるのです。こうすれば高いところに入っても、大きな相手でも倒すことができます。

タックルされたら キチンとダウンボールします。
ワンモーションは許されていますから必ず味方側に置きます。

平成 19 年 1 月 2 1 日、平成 19 年 1 月 2 8 日

Ⅲ－ 3. 2 対 1 で

グリッドを作り、タッチラインがあるものとして実施します。
2 人はボールを持って攻撃です。1 人はタックラーとなります。
攻撃側はタイミングのよいパスで相手を抜くようにします。
引きつける感覚を養います。想定されるタッチラインから出てはいけません。
タックル側は相手をよく見て内側を抜かれないようにします。
外に追うようにします。
見込みでタックルにいくとどちらも捉まりません。

Ⅲ－ 4. 3 対 3 で

ここでもグリッドを使います。基本的には 1 対 1 ですが連続します。
攻撃側と防御側が 3 人ずつ分かれます。
ボールを持ったプレーヤーにタックルします。タックルされたプレーヤーは
ダウンボールします。そのボールを味方が拾って突進し、相手はタックルします。
ダウンボール、タックルを繰り返します。ラインに届いたらトライです。
相手を決めておいてもいいでしょう。
味方が拾いやすいようにダウンボールをするのがポイントとなります。

Ⅲ－ 5. バックスのタックル練習

Ⅲ－ 6. スマザータックル

ボールを持っている相手をボールごと捕まえるタックルです。倒れていませんから
正確にはタックルではありません。
ボールを動かさないようにするためのタックルです。捕まえたら自分の体重を利用して
相手を倒します。足を掛けてはいけません。
ハイタックルにならないように注意します。特に相手が小さいときに。

IV. ダッシュの練習

この練習はスピードをつけて相手ラインを突破することが目的です。

長い距離を走るのではなく、もらってから5mも走れば十分です。

子供たち個々が自分たちが持っているスピードを最大限に出せるようにします。

* ボールを受け損なっても叱らないでください。スピードを出すことが目的ですから。スピードを出して走っていればボールが自分の懐に入ってくるという感覚を養いたいのです。

IV-1. コーチがボールを持って またはボールを浮かせる

ボールを持っているプレーヤーは後ろが見えません。

“右出せ”、“左パス”などの声かけが必要です。それも大きな声で。

<コーチの目>

真っ直ぐ走る 蛇行しながら走る子がいます。スピードが落ちます。

声かけが遅い ボールを浮かせる場合は早めに声かけをするようにします。

前傾姿勢をとる 常に相手が目の前にいることを考えるようにします。

相手に当たられてもすぐに倒れないように前傾姿勢をとります。

平成19年1月14日、平成19年2月4日、平成19年2月11日

平成19年4月08日

IV-2. コーチまたはハーフがパスをする 一人で

IV-3. 複数で

ボールが地上にある場合、ボールが空中にある場合、一番近くにいるプレーヤーは

“マイボール”の声をだすようにします。味方同士の取り合いを防ぐためです。

一人で練習しているときと同じで真っ直ぐ走る、声かけ、前傾姿勢をとります。

ボールは早く回すようにしましょう。

<コーチの目>

ボールは全員に回す ただついていってただけという子がいます。

積極的にボールをもらうようにします。

声がないとパスしない 意識的に声かけのある方にパスを回します。

後ろにいるプレーヤーの方が相手の動きが見えるから。

スピードが落ちる パスをもらうとき止まる、スピードが落ちる子がいます。

ボールに対する恐怖心、または確実にボールをもらおうと意識するからでしょう。

- * マンツーマンで早く矯正しましょう。コーチと一緒に走ってボールを手渡しするなどで直すことができます。

平成 19 年 1 月 1 4 日、平成 19 年 4 月 0 8 日

V 1. モールの練習

モールもラックもボールを保持し続ける（味方ボールのとき）のが目的です。

継続して相手を攻撃しなければなりません。ボールを取られないようにします。

相手ボールのときはターンオーバーを狙います。

ボールキャリアーを相手が捉まえ、それに一人以上のサポートがついた時、モールが成立します。3人以上でなければモールにならないのです。

ボールは地上にはありません。

モールになったら押すことが大事です。押している、ボールが動いている。

ミニのルールでは、モールを宣言して5秒以上出なかったら相手ボールのスクラムとなります。ボールがコントロール下にある、動いている状態ではしばらく様子を見ます。

- * コントロール下にあるというのは、最後方のプレーヤーがボールを見せており、いつでもハーフがそのボールを取って次のプレーが出来る状態を言います。
- * 最後方のプレーヤーがボールを持ち、ハーフがそのボールに手をかけている状態のとき、モールは解消していません。持って離れるか、パスをしたときに解消します。

<コーチの目>

まず押すこと	モール・ボールが動いていることが大事です。 押す時は駆け足で。
早く出す	矛盾した言い方になります。押せなければ早く出すのです。 状況判断となりますが、練習では押す、実戦では早く出すということになります。教え方が難しいですね。
ボールの出し方	股間または斜め後ろからボールを出すのが良いでしょう。 * 当たって振り向いて出すという方法もあります。 ラインアウトでは有効な方法です。
バインドする	相手または味方をしっかりと掴みます。バインドをしないと割られる、押されることになります。
ばくられない	ボールをしっかりと持つ、相手の届かない位置で持つことです。
3人以上	ボールキャリアーを含めて3人以上はモールに入らないようにします。多く入っても効果はありません。 1人はBKが参加している場合が多いのでFWは1人余ります。周辺で待機し、サイド攻撃に備えます。

V-1. 2人で

モールの基本練習です。一人目がボールを持って当たり、二人目がサポートします。二人目の入り方が重要です。

<コーチの目>

二人目の入り方

ボールの見える側に入ります。そうしないとボールを相手に取られてしまいます。よく見て入るのです。

* クサビに入るとい考え方もあります。

これを強調すると横から入ることになりかねません。

高学年になって要領がわかってからでいいでしょう。

モールに横から入れば反則です。ペナルティ。

バインドをする

相手を掴みます。味方は掴みません。

一人目は

一人目が低くはならないと二人目は高くなります。

ボールをコントロール下にします。そうすればハーフに渡す、ダウンボールをするのが楽になります。

平成 19 年 2 月 1 1 日

V-2. 3人で

本格的なモール練習です。ここでモールとはどういうものを認識します。

基本的な動作は、一人目がボールを持って相手に当たる、二人目はボールを囲みこむようにして当たる、このとき外側の手は相手を掴む、三人目は二人目の入った反対側に入り、外側の手は相手を掴む、内側の手は二人目を掴む、二人目も内側の手で三人目を掴む、このようにすればよいのです。

結果として一人目はフリーとなり、抜け出すことも、場合に応じてダウンボールをすることも、ハーフにボールを渡すことも楽にできます。

<コーチの目>

押せれば

押せれば押しまくるようにします。

押せなければ

早めにダウンボールし BK に回すようにします。

3人以上は

BK・FW を問わず、モールに入るのは3人まで。

多く入っても効果はありません。FW が余っていればモールの脇で待機し、サイド攻撃に備えます。

当たりと同じ

一人目、二人目の動きは前述と同じです。

当たる、押す、バインドするを注意してください。

V-3. 移動モール

色々なやりかたがあります。本来の移動モールはモールの中でボールを回しながら押していくことですがミニではそうはいきません。位置を移動してやるのです。味方がボールを持って相手に当たる、そのボールを取って後ろに回す、ボールキャリアーが相手に当たる、そのボールを取りに行く を繰り返すのです。

5人くらいが1組になり、交互に攻撃してみましょう。

ダウンボールをしてもよいのです。

<コーチの目>

- * 今までの当たり、押し、バインドが出来ているかを確認します。
- * 声掛けができていないと素早く後ろに回りません。
- * ここでは早い球出しを練習します。
- * チームプレーとなりますから、二人目、三人目がしっかりとパックして入っているかが鍵となります。迷わない。
- * 地上にあるボールへの働きかけが上手くいっているかを確認します。

VI. ラックの練習

ラックは地上にあるボールを相手方と味方が各一名以上で取り合いをしている状態をいいます。2名で取り合っていればラックが成立しています。

タックルされてボールが地上に置かれる、モールからダウンボールされて地上にあるというケースからラックになることが大半です。

ラック内にあるボールは手で拾いあげてはいけません。ピックアップペナルティ。

タックルが成立して 素早く拾いあげるのがベストですが、お互いに競り合っているのですから難しい場合があります。

そこで相手に拾わせない、自分の足元にボールをコントロールする、いわゆる“オーバー”というプレー、ラックになるわけです。

モールからラックへ モール状態のまま押し合っていれば、パイルアップが命じられ、相手ボールのスクラムになってしまいます。

そこでダウンボールをし、ボールを早く出そうとするのです。

- * ラックでボールを支配していればパイルアップが命じられたとき、味方ボールのスクラムとなります。

モールとは反対です。

<コーチの目>

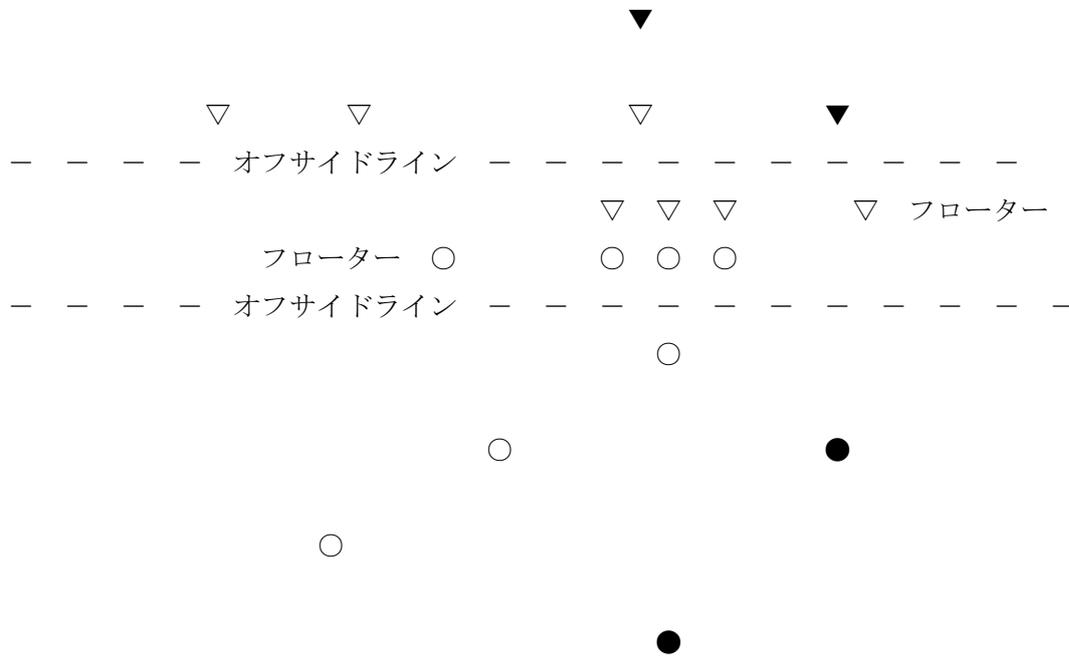
バインドする

モールと同じようにしっかりとバインドをしなければいけません。押され、割られてしまいます。

ボールを見る	ボールは下にあります。よく見ていないとボールを蹴ってしまいます。相手にボールをやるようなものです。
3人以上	モールと同じようにラックには3人以上入らないようにします。理由はモールと同じです。
オフサイド	モールも同じですが、参加しているプレーヤーの後ろ足の線がオフサイドラインです。フローターにならないよう注意します。フローターは直ちにオフサイドにはなりません。その位置から相手に働きかければオフサイドです。別図に示します。
タックルドゲート	タックルが成立したときはタックルドゲートが形成されます。ゲートの真後方から参加しなければいけません。

平成 19 年 4 月 0 8 日

モール・ラックのオフサイドライン (中学年・高学年)



VI-1.

VII. FW の練習 (中学年・高学年)

幼稚園・低学年ではFWの練習は必要ありません。

中学年からFWは3人となり、スクラム・ラインアウトが発生するのです。

と言っても3人ですからやることは限られています。

ただ、FWがボールを持って前に出ることによって試合を有利に進められるということはレギュラーのゲームと変わりはありません。特にモールとラックが重要になってきます。

VII-1. スクラム (中学年・高学年)

セットスクラムはノーコンテストです。押し合い、ボールの取り合いはなしです。安全のために、両足を肩幅程度に広げて自分の足で立つこと、首をキチンと入れること、相手をバインドすることが要求されます。

組み方だけを練習すればいいでしょう。

中学年では

- * ボールはフッカーの踵の後ろに置き、ハーフがボールをパスすることでスクラムは解消します。
- * ハーフのモグリは禁止です。

高学年では

- * フッカーはボールをキープすることが必要です。
キープしそこなってスクラムから出た場合イーブンボールとなってしまいます。
- * フッカーがウツカリと相手側に蹴ってしまった場合は、相手ボールでゲームは続行されます。
- * ハーフはフッカーの足下にボールを入れてやります。
ノットストレートはありません。
- * ハーフがボールに触ったらスクラムは解消です。スクラムの中に手を突っ込んでも反則となりません。

VII-2. ラインアウト (中学年・高学年)

中学年は2名、高学年では3名がラインアウトを形成します。

いずれもボールの取り合いは自由です。

ラインアウトはFWがFWらしい唯一のプレーとなります。

ただラインアウトでは反則となるプレーが多く発生しますし、解消についても細かい規定があります。コーチはルールを理解し、子供たちに教えてやらなければなりません。

背の高い子がいればラインアウトは圧倒的に有利です。でも麻生の子は中学・高校で伸びる子が多く小学生では小柄です。そこで工夫が必要となります。

ラインオブタッチ(タッチの地点からゴールに平行な線)ではお互いのプレイヤーは50センチ、ミニでは明確な間隔をあげなければならないとしています。

そこで

* 1番に並ぶプレイヤー(マイボールのとき)はラインオブタッチから1メートル離れるようにしたらどうでしょう。確実にボールが取れます。

ルールでは1メートル離れても反則になりません。

* ロングスローを多用する。(中学年では2番・高学年では3番)

スローワーのコントロールが鍵になります。

3メートルと8メートルを利用するのです。

ボールをキャッチしたら <コーチの目>

押す とにかく前に出ることです。ゴール前でしたらトライに結びつきます。

バインドする 1番が取ったときは、2番とスローワーが囲むようにバインドします。スローワーの動きが大事です。

モールかラックか チームの特性に合わせて判断すべきでしょう。どちらもマイボールですから出すのは楽なほうを選びます。モールにしたときはキャリアーが後ろ向きになる方法を取つてもいいでしょう。

サインは BKを含めてサインは徹底しておかなければなりません。

* クイックスローも認められています。

VII-3. ポイントでの攻防 (すべての学年)

ボールを持ったプレーヤーが捉まる、タックルされることでモール、ラックのポイントが発生します。ここでのボールの取り合いが試合を握る鍵となります。

まず、集散を早くすることですし、FW が早く集まったほうが有利となります。

* ボールを持った味方プレーヤーがボールを見せているとき
ボールを取りにいけます。このとき、味方プレーヤーは相手にボールごと押さえられていることが多いのでボールにいかなくてははいけないのです。

<コーチの目>

ボールを奪う ボールを奪うにはボールと味方の腕の間に肩を入れ、相手の腕を切ります。頭は味方の胸につけます。

このときに、引いてはいけません。押しながら奪うのです。

* タックルポイントでボールが地上にあるとき

ボールを拾います。ピックアップの練習を思い出してください。

<コーチの目>

ボールを拾う 相手が間近にいなければ拾って突進するのです。

拾う姿勢に気をつけてください。相手はそばにいるのです。

拾えなかったら ボールを足下でコントロールできるように相手を止めます。
いわゆる“オーバー”というプレーになります。

当たりの練習が生きてきます。

相手が拾ったら もちろんタックルです。なんとしても相手を止めるのです。

VIII. BK の練習

BK の練習の主体はパス回しです。それぞれのポジションによって特性があります。

短期間ではなかなか身につかず、繰り返しの練習が必要です。

子供たちの能力、俊敏性などを見極めなければなりません。

<サインプレー>

どのような戦術を取るかを考えなければなりません。単にボールを回しているだけであればラインは後退するだけです。互角以上の相手には通用しません。

VIII-1. ハーフとスタンドオフ

ハーフはパスが長く、正確に投げられなければいけません。学年に応じて。

ハーフはFWとBKとをつなぐ役割をします。瞬間的な判断を要求されます。

中学年から専門職として育てなければいけません。

怪我その他で休むこともありますから複数いる必要があります。

小柄で素早いというイメージがありますが、最近では結構、大柄の選手もいます。

ハーフとしての練習

セットスクラム、ラックなど地上にあるボールを処理することが多いし、地上で動いているボールも扱えなくてははいけません。

<コーチの目>

落ち着くこと

慌ててはいけません。ミニではハーフへのつぶし（パスを妨害する）は厳しくありませんから落ち着くことです。

姿勢

まず、体は低くすることです。ラックボールなどは低い姿勢でないと見えないことがあります。

踏みだし

投げる方向に爪先が向いていないと正確なパスができません。ボールは目の下で押さえ、パスします。

からだ全体を使います。投げる方向に体が倒れるくらいに。

ジャンピング

ダブルモーションにならないようにします。

そのための練習としてはジャンピングパスを取り入れてもいいでしょう。

スタンドオフは“司令塔”とも呼ばれます。左右へのパスが自由にできなければなりません。判断力が試合を制します。

また、ラインのリーダーとして声、サインなどで的確な指示を与えなければいけないのです。

ハーフと同じように、中学年から専門職として養成し、複数いるようにします。

<コーチの目>

距離は

ハーフが投げられる距離を認識していなければなりません。近くても遠くてもいけません。ハーフとの練習で確認。

受ける姿勢

あまり固定してはいけません。膝を柔らかくし、どのようなボールがきてもとれるようにします。その場で足踏みしているのも良いでしょう。

かぶりの確認

ボールを受けたとき、パスしようとする味方に相手がマークにきていればパスをしてはいけません。

自分が持って走るよりないのです。タックルされても。

キックを使うこともあります。コントロールが必要。

VIII-2. ラインを作ってパス回し

BKのライン攻撃は見ている人たちを楽しませてくれます。
でもただ回しているだけでは相手ラインを突破できません。
そこでサンプルーを使っていくのです。

普通の球回し

ハーフ、スタンドオフ、センター、ウイングと普通の球回しをします。

ここではパス、キャッチングを見ます。タイミングの調整です。

流れていないかも確認します。横走りのことです。

* ウイングのところでポイントとし、再度回してみます。

* 順目で回してみましよう。右ラインでポイント、さらに右回し。

逆目には相手FWが残っています。

ループ

スタンドオフがボールをセンターにパスしたあと、センターとウイングの
間に入り、再度パスをもらいます。

センターとウイングの間に入ることもあります。

高学年の場合は、センターが第二センターとウイングの間に入ってもいいの
です。パスをもらったら縦に突進するようにします。

シザースパス

スタンドオフがボールを持って少し流れ、内側にセンター、またはBウイン
グが縦に入ってきます。色々な組み合わせができます。

カンペイ

スタンドオフがボールを持ち、そこへセンターが直進します。

タイミングとスピードが成功の鍵となります。

Bウイングを活用するとか、ここでも色々な組み合わせができます。

飛ばしパス

スタンドオフがセンターを飛ばしてウイングにパスします。

第一センターからウイングへとも考えられます。

スピードのあるウイングがいれば最適です。

ブラインド攻撃

ここでも組み合わせは多くあります。

ハーフがBウイングに直接パスをする。スタンドオフがブラインドに回りこ
んでパスをもらう。

どちらの場合もハーフがボールに触ったらすぐに走り出してタイミングを取
らなければなりません。平行な位置くらいでもらえば最高です。

* シザース、飛ばしの場合はオブストラクションに注意します。

VIII-3. キック攻撃

キックによる攻撃も一つの手段です。しかし、キックは味方の手から離れます。コントロールのないキックは、相手にボールを渡すこととなります。

中学年以上はフィールドのどこでキックをしてもかまいません。

* 自陣10メートル以内からキックしたボールが直接タッチに出てもダイレクトタッチにはなりません。

攻め込まれている場合は、取りあえずタッチに蹴りだし、態勢を整えなければなりません。

* マークが厳しく、パスしようと思ってもできない場合はキックを使います。ごろキックで相手ラインの後ろに転がす、ショートパントで相手の頭上を越すなどの方法をとります。意図的にやることもあります。

* ハイパントキックで地域を稼ぎ、かつ味方を前に出すことも考えられます。

IX. FW と BK が一体となって コンビネーション

この練習は実戦と全く同じです。コーチがマークになってやり、適度に押さえてやれば、なお、いいでしょう。

ここで全てのプレーを見ます。レフリーをつけて反則も厳重に取ってみます。キックオフ、セットスクラム、ラインアウト、ペナルティそして続くモール、ラックなど。きりのいいところで笛を吹き、反復練習をします。

FW コーチは FW を見、BK コーチは BK をみます。

<コーチの目>

トライを取る	トライを取ろうとする意欲が見えないといけません。 笛が吹かれるまでプレーを続けるのです。 練習のための練習ではいけないのです。
個人を見る	担当コーチは子供たち一人一人をみてあげてください。 いいところは褒め、悪いところを指摘してやるのです。
集散	ポイントでの集散に遅れる子はいないか。 チームになっているかどうか。
反則	反則すれば流れは変わるし、攻防も変わって不利です。 ルールをキチンと教えます。
ポジション	それぞれのケースで自分のポジションを理解しているか その位置にいるかを確認してください。
サインプレー	色々と試してみましよう。 FW のサインは BK も、BK のサインは FW も知っていなければいけません。対応出来なくなります。

IX-1. キックオフ (中学年・高学年)

前後半の始め、トライ後の試合開始に行われるのがキックオフです。

相手のいないほうに蹴ってはいけません。

中学年以上は原則としてドロップキックです。高く上がるボールが有利です。

フォーメーションは別図の通りです。参照。

<コーチの目>

アタック側では

素早い出足

最前線にいるプレーヤーはキッカーのスタートと合わせて全速力で落下地点に向かいます。早すぎるのに注意。

デフェンス

その間に BK はデフェンスラインを敷きます。

* 7人制ではウイングが1人しかいませんので、第1列に置くのは問題かも知れません。9人制では当然のシフトです。

デフェンス側では

地域をカバー

落下地点に穴が空かないようにします。

自分の守備範囲を確認しましょう。

バウンドしてタッチに出るのは最悪のケースです。

マイボール

キャッチするときは“マイボール”の声を。仲間に知らせます。後ろに下がりながらのキャッチはいけません。頭を越すようでしたら後ろの味方にまかせるようにします。危険な場合もあります。

集散を早く

FW は落下地点に早く集まるようにしましょう。

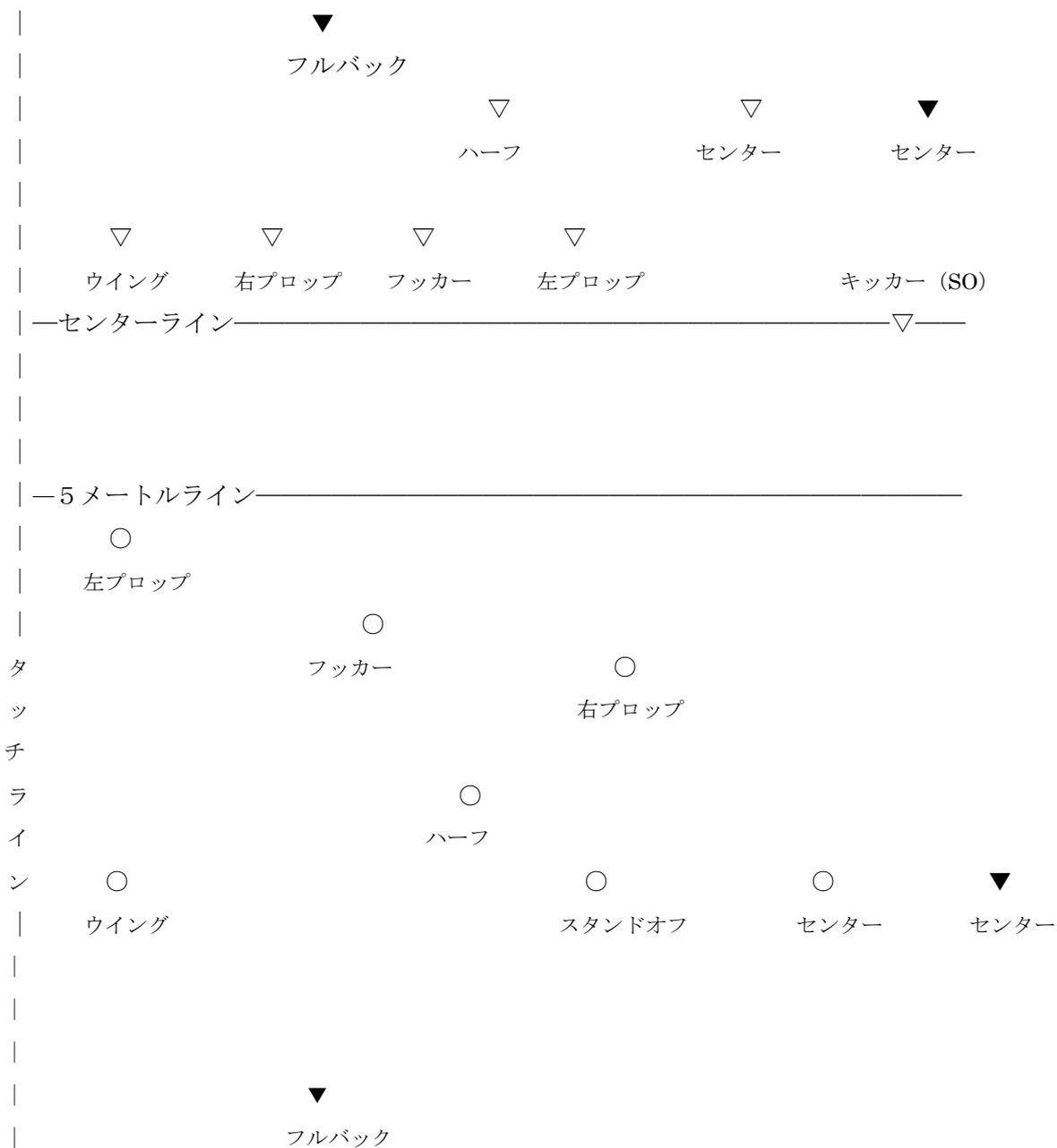
次のプレーに参加できるように。

平成 19 年 2 月 4 日、平成 19 年 2 月 11 日

キックオフのポジション

(中学年・高学年) 高学年は▼が増える

<アタック側>



<デフェンス側>

IX-1-2. チャージ (高学年・中学年)

相手ゴール前に攻め込んで、相手ボールのスクラムとなったとき、相手側は普通の場合、キックでタッチに蹴り出そうとします。これを妨害しようとするのがチャージです。

チャージしたボールが手に当たって前に落ちててもノックオンとはなりませんのでプレーを続けなければなりません。

チャージに行くのはハーフまたはスタンドオフです。

高学年(5・6年生)ではブラインドウイングも。

<コーチの目>

全速力で チャージはタックルではありませんからキッカーへは全速力でいくようにします。両手を上にあげ、ボールの当たるスペースを大きくします。

チャージャー以外は 相手がミスキックをする(タッチに出ないでフィールドに落ちる)ことがあるので大きく展開します。

キックオフと同じように考えてください。

どこにくるかかわからないのです。

平成19年1月28日、平成19年2月4日、平成19年2月11日

X. キックの練習

低学年以下ではキックは全て禁止です。ゴールキックもおこなわれません。

中学年以上はフィールド内で自由にキックができます。

10メートルラインの内側から蹴られたボールが直接タッチに出た場合はタッチとなりますが、外側から蹴られたボールが直接タッチとなればダイレクトタッチです。

蹴った地点に戻されて相手ボールのスクラムとなります。

X-1. パントキック (中学年・高学年)

手に持ったボールを蹴るのがパントキックです。

ボールを横向きに持って蹴る方法もありますが、原則は縦持ちです。

甲のいくぶんか右側に当たれば右回転して飛びます。右利きの人。

左側に当たれば左回転です。両方とも蹴ることが出来るよう練習しましょう。

馴れてくればBKラインの頭を越すようなパントキックも出来るようになります。

<コーチの目>

力まない

力を入れたからと言って飛ぶとは限りません。

かえってコントロールのないキックとなります。

足の甲に

足の甲に乗せてやることです。

ボールが足の甲にスッポリとはまるような感じです。

体の向き

蹴る方向に体を向けます。

そうしないと意図した方向にボールが飛びません。

コントロール

蹴ったボールが相手のふところに入ってしまうと逆効果となります。攻撃権を渡すようなものです。

タッチに出す場合は確実に出るようにしましょう。

距離は稼がなくともいいのです。

* パントキックの練習の時は、出来れば逆足でのキックの練習もしてください。

飛ばなくてもいいのです。普通のキックが伸びるようになります。

X-2. ドロップキック (中学年・高学年)

キックオフ、トライ後のキックオフ、ドロップアウトに時に行うキックです。

パントキックと違って当てる位置が難しいかもしれません。

ここでも落ち着いてタイミングよく蹴るようにしましょう。

トーキック(つま先で蹴る)だとボールは上がりません。

ボールが地面から撥ねかえったとき、高い位置で蹴ればボールは高く、遠くに飛びます。

キッカーは3年生から必要となりますので、素質のある子を養成してください。

X-3. プレースキック (中学年・高学年)

トライ後のコンバートキックで多く使われます。

トライをした後の権利として、2点追加のチャンスです。重要なキックとなります。力まない、足の甲に、体の向きなどはパントキックと同じですが、ボールを置く時に気持ちを集中させ、かつ祈ることです。粗雑にボールを置いてはいけません。

置く時はゴールポストに向け、慎重に方向を定めます。

置いたらキックスタートでポストは見ないことです。

キッカーは3年生から養成してください。

* 最初はスタートの距離を短くしてください。助走を取らないことから始めます。

X-4. ごろキック (中学年・高学年)

相手BKラインの間を抜くキックです。コントロールが鍵となります。

相手マークが厳しく、パスの余裕がないときに使います。

意図的にやってもいいですが、そのときにはウイングを早めに上がらせるなど連携が必要です。

XI. 麻生システム (中学年・高学年)

麻生システムは平成8年に私が考案したものです。当時、梅原(弟)君がスタンドオフ日比野君がセンターをしていました。

ミニ・ラグビーのルール(セットスクラムではデフェンスラインは3メートルさがらなければならない)を逆用しています。

SOはハーフとほぼ平行な位置で後ろ向きに立ち、ハーフからパスを受けるとセンターまたはウイングに浮かしパスをする、受けるほうはタイミングを計ってダッシュをしてくるというものでした。特に相手ゴール前でペナルティをもらった時の戦法として有力なものです。両翼に開くこともできます。いまはBKが5人いますから。

ゲインラインは簡単に突破できます。BKのパス回しが上手くないチームで有力です。

<コーチの目>

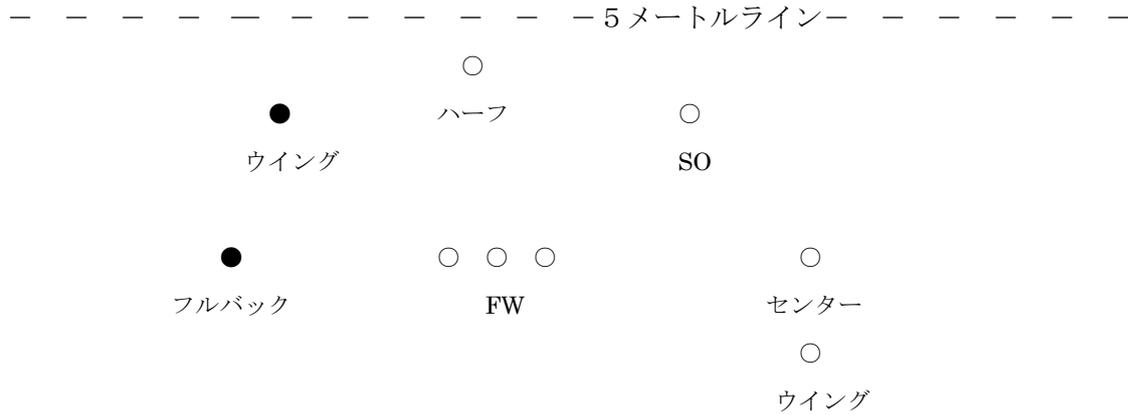
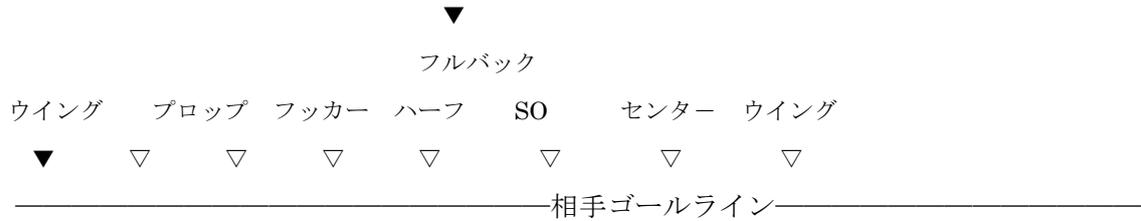
この戦法はタイミング一つにかかっています。サインも必要です。

ハーフは早いパスをしなければなりません。

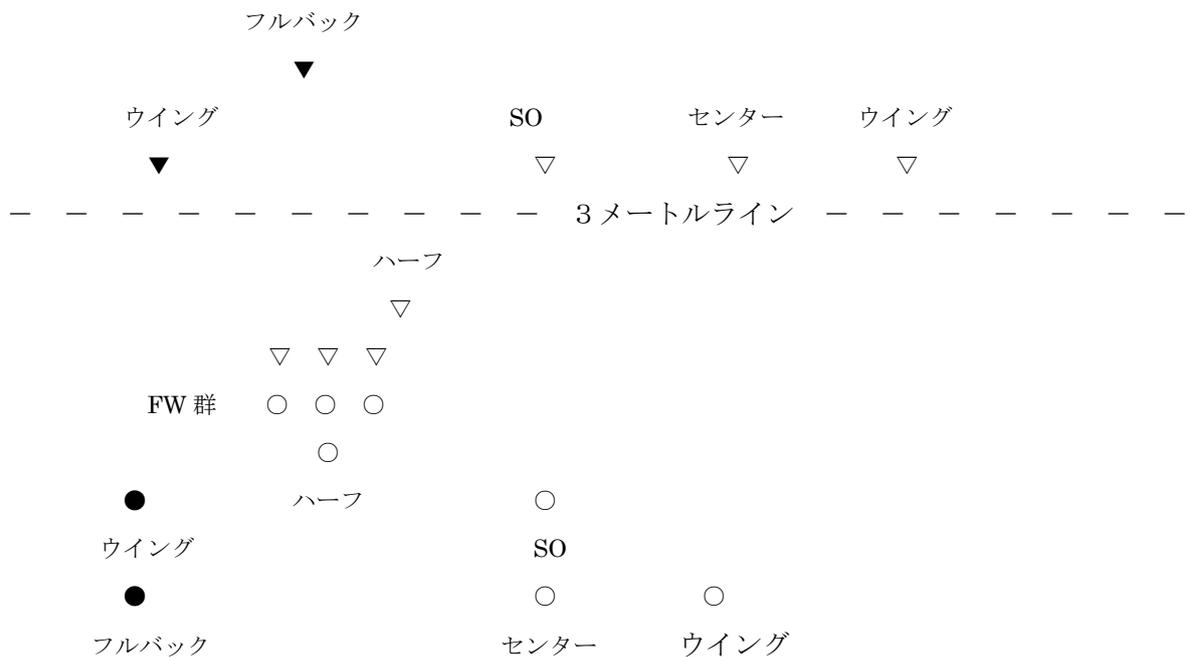
麻生システムのポジショニング

(中学年・高学年)

<ゴール前でペナルティを得たとき>



<セットスクラムのとき>



XII. 試合

- 試合前 当スクールの子供たちはオットリとしてせいか、試合前の集中力にかける面があります。如何にもり立ててやるかはコーチの責任でもあります。学年・チームの状況によりますが工夫をしてください。
* ウオークライを取り上げてみましたが県協会から遠慮するようにと言われてしまいました。
- 試合中 タッチジャッジとなる人は、一切、子供たちへの声かけはやめてください。コーチも声かけはしないでください。効果はありません。
いいプレー、良くないプレーを記録し、次の練習に参考になるようにしてください。負けた試合の方が得ることが多いのです。
父母の方々は大いに声援をしてください。品の悪い言葉はつつしんで。
- 試合後 ミーティングは短めにしてください。特に負けた試合では長いミーティングになりがちです。子供たちはわかっているのです。
いいプレーをほめてやることで十分ではないでしょうか。

XIII. ペナルティへの対応

重度な反則をしたときに与えられるのがペナルティキックです。与えられれば大きなチャンスです。逆に取られればピンチとなります。特にゴール前では。俊敏な動きが必要となります。

<コーチの目>

* 取られたとき

素早く戻る ポイントから5メートル下がります。
下がらなければ、再度、ノット5メートルで反則を取られます。

目を離さない 下がる時にボールから目を離してはいけません。
ボールを見ながら下がるのです。
相手がボールに足を当てたら5メートルは解消です。
すぐ前に出て相手を止めます。

穴を空けない 平均に広がらないとギャップを突かれます。

* 取ったときは

サインを使う BKにいくかに見せてFWが動く、逆の場合も。
サインが必要です。ダミープレーもいいでしょう。
麻生システムもいいでしょう。

穴を見つける 隙間を見てそこに突っ込むのです。スピードが命。
なにも相手の多くいるところに行く必要はありません。

Qスタートも

XIV. 危険なプレー

ラグビーは紳士のスポーツであり、フェアプレーが要求されます。

この精神に反する行為はしてはいけません。

また、レフリーは絶対的存在であり、クレームをつけることは許されません。

レフリーが判定を間違えることはあります。それでもダメなのです。

以下に危険なプレーを列挙します。絶対にしないよう指導してください。

殴ってはいけません。踏みつけてはいけません。蹴ってはいけません。

足で引っかけてはいけません。

ハイタックル 相手の肩の線より上にタックルしてはいけません。

ステイファームタックル 相手のボールを落とそうとして腕を払ってはいけません。

スコップ 空中にいるプレーヤーにタックルしてはいけません。

キックオフ、ラインアウトで発生します。

ノーボールタックル ボールを持っていないプレーヤーにタックルしてはいけません。

アーリータックル 早すぎるタックルをしてはいけません。ノーボールタックルです。見込みでタックルすることです。

レイトタックル 遅すぎるタックルをしてはいけません。

キッカーに対して行うことが多いのです。

オブストラクション 相手のタックルコースに入ることなどです。

シザースプレー、ダミープレーなどで発生します。

ほかにもありますがミニでは以上のことに注意すればいいでしょう。

危険なプレーはすべて相手ボールのペナルティとなりますが場合によってはシンビンまたは退場となります。

XV. タッチジャッジ

原則としてタッチジャッジはレフリーの資格を持っている人が望ましいのですがミニではコーチがやっても良いのです。しかし、ともすればタッチジャッジの立場を忘れ、大声でコーチをしているケースも見られます。

タッチジャッジはレフリーの一員であり、ゲームの進行に携わっているのですから必要以外の言葉を出してはいけません。

タッチジャッジは絶対にボールに触れないでください。

* 人がいなければ何時やらされるかわかりません。必ず読んでください。

XV-1-A. 服装など

ジャージの色は、対戦する両チームと対照的なものを着用してください。

自チームの色はわかりますね。相手チームの色は公表されています。

わからなければ先輩レフリーに確認してください。

時計も着用し、試合開始とともにセットしてください。

レフリーの時計が故障する、押し忘れることがあります。

XV-1-B. トス

ミニでは15分前、または前の試合のハーフタイムにトスが行われます。

自チーム・キャプテンと同行し、本部席でトスを行います。

競技委員、CS委員から注意事項が伝えられる場合がありますから、自チームに帰ったら子供たちに伝えます。

* レフリー・相手チームタッチジャッジ・相手チームキャプテンなどと握手し挨拶をしておきます。試合終了後も挨拶をしておきましょう。

XV-2. セットプレー

セットプレーではそれぞれ立つ位置が異なりますので注意してください。

XV-2-A. キックオフ

自チームの左サイドがタッチジャッジサイドです。

オープン側ではボールの飛んできそうな位置を予測してその位置に立ちます。

ブラインド側では5メートルラインに立ち、デフェンス側の子供の位置を制御します。出ていれば“さがって”と声をかけてください。

XV－2－B. スクラム

デフェンス側のBKのオフサイドラインをフラッグを持っていないほうの手を水平に上げ、指示します。ここでも出ていれば声をかけてやります。

XV－2－C. ラインアウト

ボールがタッチに出たらすぐフラッグを上げます。上げながらタッチの地点に行きます。上げるのが先を忘れずに。

タッチポイントを示し、レフリー、スローワーが確認したらデフェンス側のオフサイドラインに立ち、手を上げて示します。出ていれば“下がって”と声をかけます。投入側でないタッチジャッジは最初からオフサイドラインに立ち、制御します。

XV－3－D. ペナルティキック（フリーキック）

オフサイドラインに立ち、手をあげます。出ていれば声をかけます。

- * セットスクラムのBKのオフサイドラインはスクラムの最後方から3メートルです。
- * ラインアウトのBKのオフサイドラインはラインオブタッチ（タッチポイントからゴールラインに平行な線）から5メートルです。
- * ペナルティのオフサイドラインはポイントから5メートルです。
- * ゴールラインから5メートル以内では如何なるセットプレーも出来ません。

XV－3. 旗をあげる

フラッグを上げるという行為は重要なことです。3メートル・5メートルを示すとき、絶対にフラッグは上げないでください。メッセージが違います。

XV－3－A. ゴールキック

ゴールキックのときはゴールポストの下または後方に立ち、ボールがクロスバーを越え、ゴールポストの間を通ったときはフラッグを上げてゴールを合図します。

XV－3－B. タッチ・ゴールライン際

タッチになったときはフラッグを上げますが、ゴールラインとタッチの境目のときはトライかタッチを見極め、レフリーから確認を求められたら的確に判定を報告します。トライのときはフラッグでインゴールを示します。コーナーフラッグにボールを持った選手が触れたらタッチです。

XV－3－C. ダイレクトタッチ

タッチになったときはフラッグを上げますが、ダイレクトタッチになったときは頭上にフラッグともう一方の手をクロスさせることでダイレクトタッチであることを示します。

XV－3－D. 危険なプレー

危険なプレー、不行跡なプレーがあったときはフラッグを水平に、タッチラインと直角の方向に上げます。レフリーへの合図です。

プレーが続行されればそのまま続けます。

プレーが停止すればフィールド内に入りレフリーと協議します。